

今回は本文が長いのでタイトルを省略してみたけど、みんなはどうか？

華麗なる図書館利用者のための

Cool Librar

クールリブラ

講座

カジのひねもすハイスクール純情派

文/カジ

原住民B

カジ

原住民A



笑いの神が宿ったかのような段ボール原住民

段ボール原住民はガムテープで棒にくっつけていたのだが、絶妙なタイミングで剥がれ落ちる所にカジの天性のアレを感じるのな。本番ではその後「床に落ちた原住民を雑に持ってハケる」というネタを加え、もうひと笑いゲット。会場の空気は完全にカジが支配していた。ほんの十数秒だけだな…

「1団体の持ち時間は20分。その中でカジの出演時間は2分弱。ウケてもスベっても2分弱だが、どうせなら爆笑を取ってやろうと目論むカジ。いよいよ僕らの番だ。」

えのぐが剥げてきた！

正確には剥けるといふよりヒビが入って来たのな。やる気満々で早めにえのぐを塗ったのが仇となったか。ただ、えのぐを塗り直してある余裕は既になく、所々ヒビの入ったゼブラっぽい原住民で登場するのみ。さあゼブラ原住民カジの出演だ！

2人の段ボール原住民を従え、全校生徒が見つめるステージに向かうカジ。爆笑？失笑？笑ってもらえるなら何でもOK！だが、意気揚々と登場したカジを待つていたのは爆笑でも失笑でもなく…

聴力検査のヘッドフォンを付けた時のような静寂だった！

もはやスベってもいいない！登場時のインパクト勝負のこの原住民役、そこで笑いが取れなければもう打つ手はない。加えて与えられたセリフは「ウンポポウンポー」のみ。死んだな俺！

カジの死を横目にストーリーは進む。謎の島にたどり着いたものの言葉がわからず、主人公の太郎くんが島を後にするシーン。「よくわからないやあ…(困)」という太郎くんの言葉の後に更なるピンチが…

段ボール原住民A(右側)が棒から剥がれ落ちたのだ！

会場から漏れるリアルな失笑。こんな形の笑いならいらぬよ。ぐすん…しかし、ピンチをチャンスに変える男カジ。すかさずここで勝負に出る。ヒラヒラと剥がれ落ちていく原住民Aに向かい叫んだ！

「~~~~~」

ウケた！さっきまでウンポポとしか発していたなかった原住民から出た、まさかの和風な名前が会場が湧いた。全米も泣いた。